

# 營業報告

2015年4月1日～2015年9月30日

第57期中間報告書

## 目次

- 01 株主の皆様へ
- 02 トピックス
- 03 当第2四半期の業績について
- 07 当第2四半期の概況
- 09 株式に関する事項
- 10 会社概要

## 株主の皆様へ

message

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第57期第2四半期(2015年4月1日～2015年9月30日)における連結決算の概要をご報告申し上げます。

当期における当社グループを取り巻く経営環境は、政府による経済・金融政策などを背景に、企業業績や設備投資に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調が続いております。

また、半導体製造装置業界におきましては、大手半導体メーカーの次世代プロセス関連の設備投資により、回復基調にありましたが、市況環境や需要環境の回復が遅れており、予断を許しません。

このような経営環境のもと、当社グループは顧客満足度の更なる向上のために、市場ニーズを先取りした新製品の投入によりお客様の装置の競争力向上に貢献するとともに、医療系などの新分野への開拓、設備の最適化、品質面では業界水準を越える品質の確保、また社内の業務の効率化により、収益性の向上に取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、引き続きより一層のご理解と力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

広光 勲

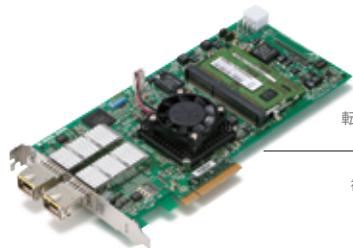
## 第57期第2四半期 トピックス

当第2四半期は、中期経営計画の「実行と実現」による積極的な経営資源の投入で、引き続き新製品開発と新たな主力分野への展開を自社保有技術をベースに実現することができました。

事業の核となる「組込み製品」は、販売実績が出てきた高速アナログ/デジタル入力ボードのシリーズ化、「画像処理製品」では、見えないモノを見る近赤外線カメラのシリーズ化、好評であるカラー光切断法による三次元形状測定の新なる性能アップ開発、「計測通信製品」では、光を媒体としたGiGA CHANNELシリーズの製品シリーズ化を進めてまいりました。

また「双方向デジタル制御電源装置」では、蓄電システムパッケージや公共設備関連向けに小型システムのLVDCバスシステム用各種コンバータの開発、「電話回線接続装置」や「遠隔監視装置」では、シリーズ製品の充実をはかるためにネットワーク対応型製品の開発を遂行させることができました。

引き続きの継続テーマではありますが、医療・薬剤・食品業界、電力・鉄道・船舶・車両といった新たな分野への積極的な提案営業による開発案件の取込み、また東アジア諸国への戦略製品の市場展開も徐々に進みつつあります。



転送速度最大80Gbps光通信モジュール  
APX-7402

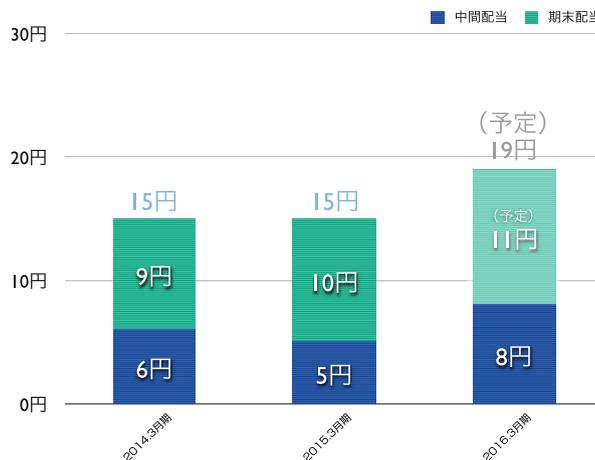
光ファイバケーブルを用いて1対1、または複数のシステム間で情報を超高速に通信するGiGAシリーズの新たな方式「GiGA CONNECTION」を採用した高速光通信ボード。

## 第57期 中間配当の実施について

当社は、将来の企業価値向上に向けた事業投資に伴う中長期的な資金需要や財務状況の見通しなどを総合的に勘案し、当期よりは連結配当性向35%を基本に安定的な配当にも考慮しつつ、株主の皆様への成果配分を行っております。

当期の配当金につきましては、このような基本方針のもと、既に発表いたしましたとおり中間配当を1株当たり8円とさせていただきます。

なお、期末配当は1株当たり11円とし、通期配当金は19円(前期実績15円)を予定しております。



## 当第2四半期の業績について（連結）

円安による物価上昇に伴う個人消費の弱さをはじめ、中国経済の減速や欧州経済の停滞など依然として景気の先行きは不透明なまま推移いたしました。政府による経済・金融政策などを背景に、企業収益や設備投資に改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは顧客満足度の更なる向上のために、市場ニーズを先取りした新製品の投入によりお客様の装置の競争力向上に貢献するとともに、品質面では業界水準を超える品質の確保、更に社内の業務プロセスを見直すことにより、収益性の向上に取り組みました。

この結果、当第2四半期における売上高は3,311百万円（前年同期比14.8%増）、高付加価値製品の売上高増加に加え、効率的な研究開発活動を行ったことにより、営業利益は269百万円（前年同期比169.8%増）、経常利益は293百万円（前年同期比139.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は198百万円（前年同期比153.8%増）となりました。

### 損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前期	当期
	2014年4月1日～ 2014年9月30日	2015年4月1日～ 2015年9月30日
売上高	2,884	3,311
売上原価	1,955	2,212
売上総利益	929	1,098
1 ← 販売費及び一般管理費	829	829
営業利益	99	269
営業外損益	23	24
経常利益	122	293
親会社株主に帰属する 四半期純利益	78	198

**1** 販売費及び一般管理費829百万円には今後の製品展開のための研究開発及び広告宣伝の費用358百万円が含まれております。

**2** 現金及び預金が40百万円、たな卸資産（商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品）が46百万円、その他が主に未収入金および前払費用の増加等により12百万円、それぞれ増加となり、減少要因として、受取手形及び売掛金が68百万円、電子記録債権が67百万円、それぞれ減少した結果、36百万円減少し7,455百万円となりました。

**3** 有形固定資産が23百万円、無形固定資産が13百万円それぞれ減少し、また、投資その他の資産が投資有価証券の時価変動の影響等により173百万円減少した結果、210百万円減少し3,400百万円となりました。

**4** 支払手形及び買掛金が238百万円減少、未払法人税等が60百万円増加、賞与引当金が23百万円減少、その他が未払金、未払消費税等の減少並びに前受金の増加等により21百万円減少した結果、225百万円減少し1,324百万円となりました。

## 貸借対照表（要旨）

(単位：百万円)

科目	前期年度末	当期
	2015年3月31日現在	2015年9月30日現在
<b>■資産の部</b>		
<b>2</b> ← 流動資産	7,491	7,455
現金及び預金	3,971	4,012
受取手形及び売掛金	1,360	1,292
電子記録債権	337	270
商品及び製品	376	407
仕掛品	303	272
原材料及び貯蔵品	901	946
その他	239	252
<b>3</b> ← 固定資産	3,610	3,400
有形固定資産	2,115	2,092
無形固定資産	89	76
投資その他の資産	1,405	1,231
投資有価証券	1,342	1,169
その他	63	62
資産合計	11,102	10,855

**5** 長期借入金が14百万円、退職給付に係る負債が8百万円、その他が繰延税金負債の減少等により54百万円、それぞれ減少した結果、77百万円減少し343百万円となりました。なお、長期借入金は「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」によるものであります。

(単位：百万円)

科目	前期年度末	当期
	2015年3月31日現在	2015年9月30日現在
<b>■負債の部</b>		
<b>4</b> ← 流動負債	1,549	1,324
支払手形及び買掛金	949	710
その他	599	612
<b>5</b> ← 固定負債	421	343
負債合計	1,971	1,668
<b>■純資産の部</b>		
株主資本	7,925	8,096
資本金	2,354	2,354
資本剰余金	2,444	2,444
利益剰余金	4,174	4,300
自己株式	△ 1,048	△ 1,003
その他の包括利益累計額	509	391
新株予約権	10	6
非支配株主持分	685	692
<b>6</b> ← 純資産合計	9,130	9,187
負債純資産合計	11,102	10,855

**6** 利益剰余金が126百万円増加、自己株式が44百万円減少、その他有価証券評価差額金が117百万円減少、新株予約権が4百万円減少、非支配株主持分が6百万円増加した結果、56百万円増加し9,187百万円となりました。なお、自己株式の減少は、ストックオプション行使による減少が32百万円、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」による減少が12百万円となります。

## 当第2四半期の業績について（連結）

### キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

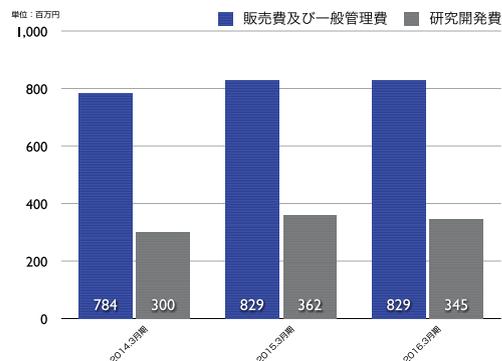
科目	前期 2014年4月1日～ 2014年9月30日	当期 2015年4月1日～ 2015年9月30日
7 営業活動による キャッシュ・フロー	46	116
8 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 775	△ 25
9 財務活動による キャッシュ・フロー	0	△ 49
現金及び現金同等物の 増減額	△ 729	40
現金及び現金同等物の 期首残高	2,918	2,381
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,189	2,422

**7** 営業活動によるキャッシュ・フロー  
116百万円の増加となりました。主に、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の計上、売上債権の減少等の増加要因が、仕入債務の減少、たな卸資産の増加等の減少要因を上回ったことによる増加となります。

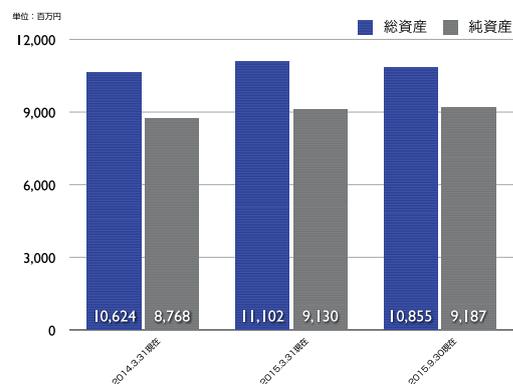
**8** 投資活動によるキャッシュ・フロー  
25百万円の減少となりました。主に、有形固定資産の取得による減少となります。

**9** 財務活動によるキャッシュ・フロー  
49百万円の減少となりました。主に、自己株式の売却による収入といった増加要因を、配当金の支払、長期借入金の返済による支出等の減少要因が上回ったことによる減少となります。なお、自己株式の売却による収入は、ストックオプション行使および「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」によるものであり、長期借入金の返済による支出は、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」によるものであります。

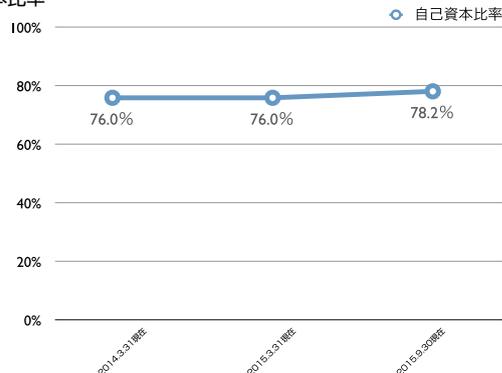
### ■販売費及び一般管理費 / 研究開発費



### ■総資産 / 純資産

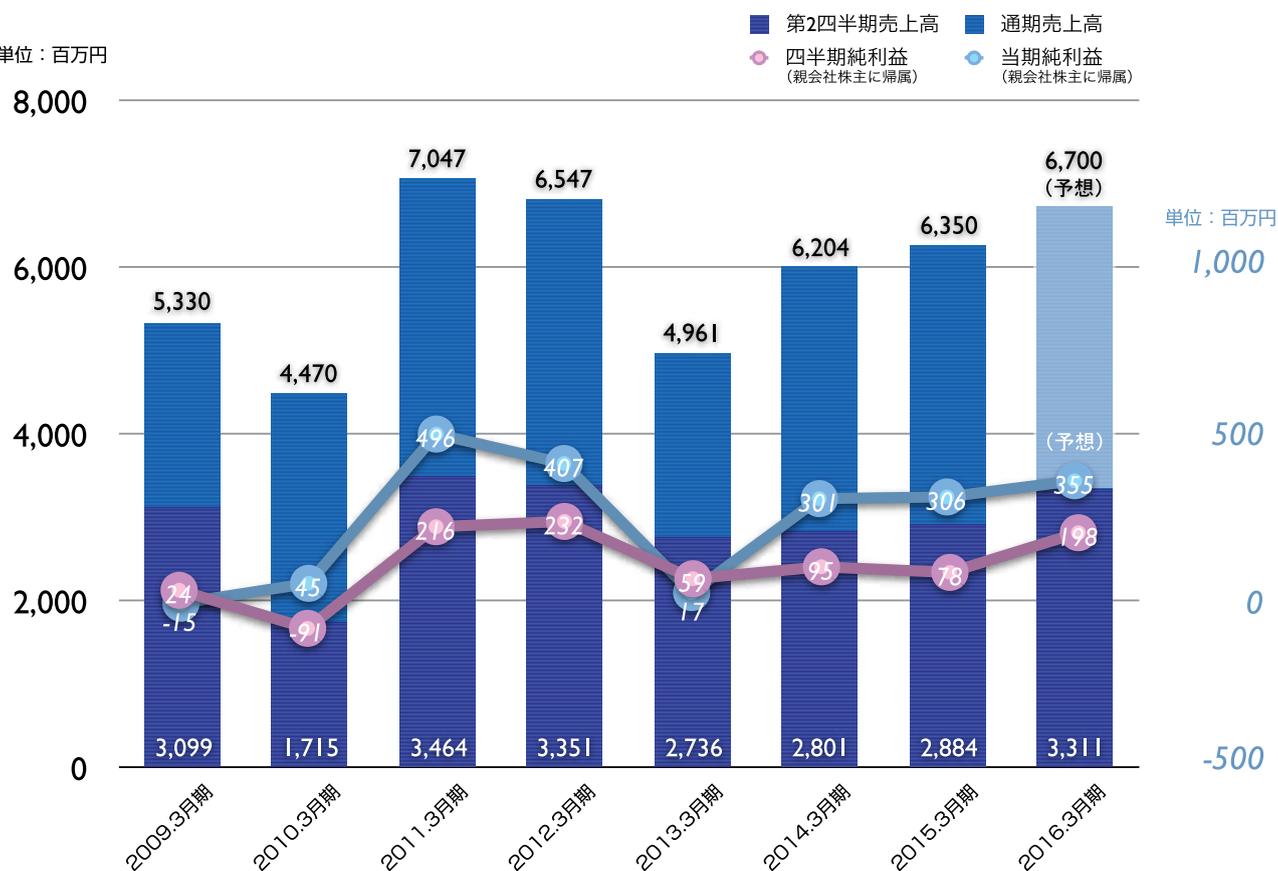


### ■自己資本比率



■売上高 / 純利益

単位：百万円



## 当第2四半期の概況

当社グループでは、事業内容を受託製品と自社製品の2つの報告セグメントに分けております。

### 1. 受託製品

当該セグメントは、半導体製造装置関連、産業用制御機器および計測機器の開発・製造・販売を行っております。半導体製造装置関連市場におきましては、大手半導体メーカーの設備投資により、概ね順調に推移いたしました。また、計測機器におきましては、各種計測機器の受注が順調に推移しております。

この結果、売上高は2,195百万円（前年同期比14.7%増）、セグメント営業利益は280百万円（前年同期比41.0%増）となりました。

#### ■ 受託製品 半導体製造装置関連

半導体製造装置の制御部を提供しております。大手半導体メーカーのLSI微細化が続く中、最先端の半導体製造装置への設備投資により、売上高は増加し、1,351百万円（前年同期比24.0%増）となりました。

#### ■ 受託製品 産業用制御機器

各種の産業用装置、社会インフラ関連の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。産業用装置の新規展開に加え、社会インフラ関連が好調であったため、売上高は増加し、327百万円（前年同期比11.8%増）となりました。

#### ■ 受託製品 計測機器

各種計測機器のコントローラ、通信機器の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。各種計測機器の受注は回復傾向にありますが、売上高はわずかに減少し、516百万円（前年同期比2.6%減）となりました。



12bit/1GSps、2チャンネル同期可能な  
高速サンプリングA/D変換ボード  
APX-5200A

様々な計測機器や医療装置に採用されるこ  
高分解能・高速A/D変換ボード。

### 2. 自社製品

当該セグメントは、組込みモジュール、画像処理モジュールおよび計測通信機器の開発・製造・販売並びにこれらに付属する周辺機器およびソフトウェア等の自社製品関連商品の販売を行っております。全般的な産業用装置における設備投資は回復基調にあり、自社製品全般で順調に推移しました。

この結果、売上高は1,115百万円（前年同期比14.8%増）、セグメント営業利益は229百万円（前年同期比67.8%増）となりました。

#### ■ 組込みモジュール

半導体製造装置、FA全般、電力・通信関連向けに提供しております。FA全般および医療機器関連における新規受注が貢献し、売上高は増加し、201百万円（前年同期比3.7%増）となりました。

#### ■ 画像処理モジュール

FA全般、各種検査装置、液晶関連機器に提供しております。FA全般および液晶関連装置はいまだ本格的な回復には至っておりませんが、新製品の立ち上げに加え食品、医薬品などの新分野における検査装置の営業開拓が順調に進み、売上高は継続して増加し、382百万円（前年同期比24.4%増）となりました。

#### ■ 計測通信機器

超高速シリアル通信モジュール「GiGA CHANNEL」シリーズ、FAXサーバ・コールセンター向けCTI（Computer Telephony Integration）・リモート監視機器およびスマート電源装置を提供しております。「GiGA CHANNEL」シリーズ関連は、新規検査装置向けの開拓が順調に進み、CTI関連も順調に推移したため、売上高は増加し、421百万円（前年同期比12.5%増）となりました。

## ■ 自社製品関連商品

自社製品の販売促進とシステム販売による高付加価値化を図るため、ソフトウェアおよび付属の周辺機器を提供しております。自社製品全般の回復により、売上高は増加し、109百万円（前年同期比16.0%増）となりました。



Embedded:小型画像処理PC  
ASI-1300T6FH  
Camera Link I/Fから光I/F、USB、GigEなど  
マシンビジョン用カメラの様々なI/Fを搭載した  
小型画像処理PC。  
フルハイトのPCI Express拡張スロット搭載。

## 第57期第2四半期に出展したおもな展示会

### OPIE'15

2015年4月22日～24日(パシフィコ横浜)

### 第17回 組込みシステム開発技術展

2015年5月13日～15日(東京ビッグサイト)

### 第7回データセンター構築運用展

2015年5月13日～15日(東京ビッグサイト)

### 画像センシング展2015

2015年6月10日～12日(パシフィコ横浜)

### Smart Energy Japan in Osaka

2015年6月10日～11日(グランフロント大阪)

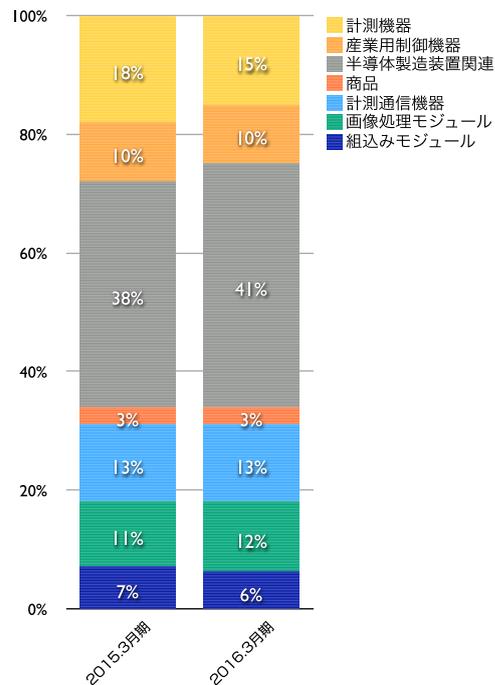
### 第2回関西スマートグリッドEXPO

2015年9月2日～9月4日(インテックス大阪)

### 測定計測展2015

2015年9月16日～18日(東京ビッグサイト)

## ■ 第2四半期売上構成比率(前年同期との比較)

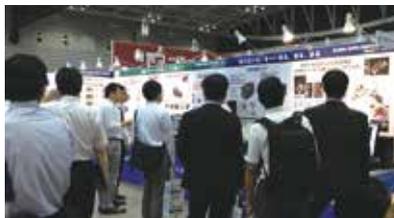


## 第57期第2四半期に開催したセミナー

### 組込み技術セミナー

Camera Link カメラとボード:画像処理その前にPart2  
町田:2015年7月10日

画像センシング展2015:パシフィコ横浜



組込み技術セミナー:東京・町田会場



## 株式に関する事項

## 株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行可能株式総数	23,500,000株
株式の種類	普通株式
発行済株式の総数	8,064,542株
株主数	2,177名
単元株式数	100株

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月開催		
基準日	定時株主総会の議決権	毎年3月31日	
	期末配当金	毎年3月31日	
	中間配当金	毎年9月30日	

## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数
株式会社ニコン	1,293,400株
アパールグループ社員持株会	376,321株
御船 滋	365,900株
奥村龍昭	237,000株
嶋村 清	193,200株
株式会社アクセル	160,000株
奥村秀樹	129,700株
株式会社日本マイクロニクス	119,600株
レーザーテック株式会社	109,500株
イーソル株式会社	107,000株

## 当社のIRに関して

当社は、投資家の皆様に、広く当社をご理解いただくため、適切な情報開示に努め、さらにIR活動の充実を目指しております。

株主様をはじめ個人投資家の皆様には、工場見学会、決算説明会の開催をととして、当社及び当社製品についてのご理解を深めていただくことを心掛けております。

またアナリスト、機関投資家向け決算説明会を年2回定期的に開催し当社の経営状況について経営者より直接ご説明をさせていただいております。

決算説明会



## 決算説明会、工場見学会

2015年5月21日	個人投資家・アナリスト向け2015年3月期決算説明会開催 ：三菱ビル10階エムプラス
2015年11月25日	個人投資家・アナリスト向け2016年3月期第2四半期決算説明会・工場見学会開催：当社厚木事業所

商号	株式会社アバールデータ
資本金	23億5,409万円
設立年月日	1959年(昭和34年)8月
社員数	171名(2015年9月30日現在)
事業内容	一般通信機器の製造販売、工業用計測器並びに工業用制御装置の製造販売、物理、化学、医学用等の電子装置の製造販売、その他の各種電子応用装置の製造販売
役員	代表取締役社長 広光 勲
	常務取締役 仲山典邦
	常務取締役 菊地 豊
	取締役 嶋村 清
	取締役 河合芳道
	常勤監査役 大塚忠彦
	監査役 三国 悟
	監査役 金子健紀
	監査役 金澤健一



アバールデータの経営理念、AVALue<sup>+</sup>（エー・バリュー・プラス）とは、それぞれ以下の頭文字を、加えて生まれた造語です。AVAL:「Available:有用性」から付けられた当社の社名AVAL。そのうえA'には:技術の「Advance:先進性」、その品質の「Assure:保証」、サービスや対応の「Agile:早さ」など様々な「価値」の意味を表しています。u:私たちの会社の理念「顧客を第一に考える」の姿勢(u[user oriented]) e:「エレクトロニクス」に代表される当社の技術(e[e-solution])。そして+:にはAVALueを進める推進力として社員一人一人が持っている潜在力を一つのベクトルにあわせて働きかけ加速させ、いつでもお客様に必要な価値を追及し提供する決意を表しています。

---

商号	株式会社アバール長崎
資本金	1億3,400万円
設立年月日	1987年(昭和62年)11月
社員数	120名(2015年9月30日現在)
事業内容	電子機器の開発・設計・製造・販売(SE電源装置、CTI関連機器、半導体製造装置、画像処理機器、計測制御機器、通信関連機器、カスタム設計、FAコンピュータの研究開発・設計・製造・販売)
代表者	代表取締役社長 川浪義光

## 株式事務のご案内

株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

各種お問合せ先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

### 公告方法

電子公告の方法により行います。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

当社のWebサイトアドレス<http://www.avaldata.co.jp>

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。

確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

## 株式会社アバールデータ

〒194-0023 東京都町田市旭町 1-25-10

TEL042-732-1000 FAX042-732-1022

<http://www.avaldata.co.jp>

